

「用の美」を極めた鳴子漆器の真髄

今から約380年前、伊達政宗公の命により始まったと伝えられる鳴子漆器。その職人の中でも50以上の塗り技術を持ち、数々の賞を受賞している後藤さんは、現代の鳴子の塗り師の代表的存在だ。「鳴子漆器は、日常の生活用品。だから、自分の手になじむものを選んで長く使ってほしい。最初から

漆だけを塗り重ねる塗り物だから素朴に思えるけれど、その分しっかりと技術を手間で必要。絶対に手抜きをしない。いつも静かな気持ちで塗りの作業自体と対面する。それが私の信条です」。時とともに磨かれ、光沢を増してゆく鳴子漆器の中に、職人としての魂を見る思いだ。



鳴子漆器職人・後藤常夫さん

「いつも、静かな気持ちで。ただそれだけです」

鳴子漆器

しっとりとした手触りに幅広い用途。塗りは木目を生かした木地呂塗やふき漆仕上げ、また独特の墨流しの技法である竜文塗などがある。上品な光沢と堅固さが魅力。



300年の伝統に現代感覚を盛り込んで

岩出山の第4代城主・伊達村泰公が武士の手仕事として奨励したことに始まるしの竹細工。その職人として、また指導者として活動しているのが千葉さんだ。「しの竹細工は、竹の皮だけを使い、その表皮を内側にして編みこんでいくので使う人の手にやさしく、水切れもいのが特徴。それだけに、手間の多さも相当なものか

つては2000人以上いた職人も、今では50人ほどになってしまいました。しかし、現代の様式に取り入れやすい商品の開発も進み今では、遠くから技術を学びに来る人も多くなりました。新しい職人を育てるとともに、「遺す(のこす)」のではなく「発展させる」伝統のありかたを考えていきたいですね」。



「道具としての用途が、網目のかたちを決める」

しの竹細工職人・千葉文夫さん

岩出山しの竹細工

美しい網目と使いやすさで人気。柔軟で弾力がある「しの竹」の特徴を活かした製品。なめらかな表皮を内側に編みこむことで、手なじみも抜群。



■後藤漆工房(ごとううるしこうぼう) ■住所/大崎市鳴子温泉字新屋敷122-2 ■電話/0229-83-3628 MAP P15

■瀾漆工房(らんうるしこうぼう)

信頼される漆器を生む伝統技術

漆一筋50年以上の職人小野寺公夫さんは、使いやすく長持ちする漆器を作るため、決して手を抜かない。その手で生み出された漆器は、使い続けることで魅力が増す。

■住所/大崎市鳴子温泉字上/原98-3 ■電話/0229-84-6544



MAP P15

■佐藤漆工房(さとううるしこうぼう)

漆の魅力を最大限に伝える工房

“安心して使える漆器”を心がけ、職人が一つひとつ丁寧に制作した鳴子漆器が並ぶ。『ギャラリー漆木舎』も併設。



MAP P15

■住所/大崎市鳴子温泉字南原200 ■電話/0229-87-2361 ■営業時間/9:30~17:00 ■休/火曜 ■HP/http://urushigoya.com/

■竹工芸館(たけこうげいかん)

竹のしなやかさを肌で感じる

しの竹細工の300年の伝統を今に伝える『竹工芸館』。館内では竹細工職人の実演が見学できるほか、ぬくもりあふれる竹細工の手作り体験ができる。指導員が丁寧に教えてくれるので、初めての人でも安心。子供から大人まで楽しむことができる。また、ギャラリーには伝統の竹製品をはじめ、ガラスや陶器などと組み合わせた作品なども展示。竹の魅力を身近に感じることができる。



MAP P17

■住所/大崎市岩出山字二ノ構115 ■電話/0229-73-1850 ■営業時間/9:00~17:00 ■休/水曜、年末年始 ■入館料/無料

